

サッポログループ サステナビリティ重点課題 取組み進捗 (2021年)

【略称表記一覧】

サッポロホールディングス：SH サッポロビール：SB ポッカサッポロフード&ビバレッジ：PS サッポロライオン：SLN サッポロ不動産開発：SRE
 恵比寿ガーデンプレイス：YGP サッポロファクトリー：SF
 ※子会社の記載がない項目は、サッポログループとしての取り組みです。

約束	重点課題	2030年までの中長期目標	2021年までの進捗	2022年計画
『酒・食・飲』による潤いの提供	安全・安心の品質	<ul style="list-style-type: none"> 『酒』『食』『飲』の品質を高める企業文化醸成・人財の継続的育成に努め、国際標準である食品安全システムの活用を基本として、効果的な品質保証体制を構築する。 お客様のニーズに応じた適切な品質レベルを追求し、商品・サービスの品質トラブルゼロを目指す。 新技術を積極的に取り入れ、高レベルの品質をより効率的に実現していく。 	<ol style="list-style-type: none"> (生産各社) FSSC22000、ISO22000等のマネジメントシステムを導入・運用。 (外食各社) 食品衛生法上のHACCP (2021年6月制度化) に沿った衛生管理を実施。 ・FSSC22000新規認証取得：PS仙台工場(新規)、SSI甲府工場及び上野原工場(ISO22000から変更) グループ各社お客様対応部門の連携体制の強化により、グループ全体の対応品質向上に取り組んでいる。お客様の声を事業活動に生かす取り組みを継続実施。 品質保証活動における生産性向上 <ul style="list-style-type: none"> リモート監査導入。AIによる表示チェックの展開。 食品安全や品質保証に関する教育施策を見直し。重要な業務を抽出し、レベルを3段階に分けた教育体系に変更。役割別人材像の確立と各実務に求められるスキルを明確化。 	<ol style="list-style-type: none"> FSSC22000やHACCPによる予防型品質保証体制の効果的な構築、維持、運用。 「お客様の声」の迅速かつ確実な共有によるサステナビリティ経営の推進。 品質保証活動における生産性向上の検討。
	新価値創造	<ul style="list-style-type: none"> 未来の変化を先取りし、「おいしさ」と「健康」のニーズに応えるための研究開発を推進する。 強みを有する植物性素材の研究と加工技術を生かした商品を通じて、新たな顧客価値を提供する。 グループ内外の連携を強化し、多様な技術を効率的に獲得し、イノベーションを推進する。 	ビールテイスト・RTD商品として、微アルコールカテゴリー「The Drafty」、RTD「濃いめのレモンサワー」など新たな領域の価値の商品を送り出している。 食品領域では、豆乳ヨーグルト、コア素材レモンの新たな健康機能性検証に取り組んでいる。	多様化するお客様ニーズと新しい生活様式に合わせ、「おいしさ」と「健康」を中心とした豊かな生活を提案できる研究開発、商品開発を継続的に実施。
	適正飲酒啓発とビール文化継承	<ul style="list-style-type: none"> 「未成年者飲酒」^(※)「飲酒運転」「アルコールハラスメント」等の不適切飲酒撲滅に向けた啓発活動を推進する。 <p>(※) 日本では20歳未満</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ミュージアム・工場の見学、「日本ビール文化研究会」の支援を通じて、日本のビール文化の継承を図り、潤いのある生活に貢献する。【SB,SLN】 	<ul style="list-style-type: none"> 「適正飲酒啓発とビール文化継承」を実現するための重点テーマとして「責任ある飲酒の推進」を設定。アルコール関連問題対策のグローバルスローガン「Promote Responsible Drinking」を掲げた。 サッポログループの適正飲酒に関する基本方針を改訂し、「適正飲酒の啓発」と「不適切な飲酒の防止」を2つの柱とした。また従来の「サッポロビールの適正飲酒に関する行動指針」を「サッポログループの適正飲酒に関する行動指針」へと改題し、グループ全体の取り組みとして拡大。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> (一社)日本ビール文化研究会の支援を継続。「日本ビール検定」(びあけん)開催を通じたビール文化継承、適正飲酒啓発を継続。2021年度はCBT方式で6月と11月に開催。 登録有形文化財に指定された「銀座ライオンビル」を通じて、ビヤホール文化の情報発信を実施。 	社会における不適切飲酒撲滅と適正飲酒啓発活動を推進。 <ul style="list-style-type: none"> ビール類(ノンアルコール飲料含)・RTD商品への純アルコール量表示：2022年1月に缶容器から順次開始。2022年末までの缶容器への実施率90%へ。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 工場及びミュージアム見学については、コロナ禍が続く中、万全な感染症対策を施し来館者への安全安心を第一に楽しんでいただける体制を構築。 (一社)日本ビール文化研究会の支援を継続。「日本ビール検定」(びあけん)開催を通じたビール文化継承、適正飲酒啓発を継続。2022年度はCBT方式で11月開催予定。 「銀座ライオンビル」の歴史的価値を共有・発展させながら、ビヤホール文化の情報発信を継続実施。

約束	重点課題	2030年までの中長期目標	2021年までの進捗	2022年計画
社会との共栄	地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・従業員一人ひとりが、地域貢献活動に積極的に取り組むことで、地域の発展に貢献する。 ・商品、サービスを通じて地域とつながり、共に課題の解決に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ・行政やパートナーと協働し、豊かな「まちづくり」を推進することで、地域の魅力向上に貢献する。【SRE,SLN】 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍対応として、こども食堂、社会福祉施設、医療従事者を含むエッセンシャルワーカーへ製品他提供を実施。 ・地域の素材を取り入れた商品または地域限定商品を発売。 ・東北復興支援「東北未来プロジェクト」による支援実施。 <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携協定数：63件（2021年12月現在） <p>【SRE】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆YGP まちづくり勉強会を開催。まちに対するニーズ・課題把握のためのインタビュー調査実施した。また、恵比寿文化祭を新たな形で開催する等、地域コミュニティ活性化に向けて取り組んでいる。 ◆SF ・マイリトルガーデンをスタート。（近隣住民40名の参加にて6月花植え、9月植え替えを実施） <p>【SLN】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被災地（岩手・宮城・福島・熊本）の食材を取り入れ各地の食材のおいしさを発信。 ・各店舗および本社近隣の清掃活動を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ会社の各拠点において、地域の課題解決につながる具体的な取り組みを継続。 <p>【SRE】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆YGP ・東京都や渋谷区と連携し具体的な恵比寿まちづくりビジョン策定に向け周辺企業、町会等と協議を進める ・共創プラットフォーム（デジタル）継続。 ◆SF ・コミュニティの形成、強化、拡大に向けた取り組み実施（ワークショップ、防災イベント等） <p>【SLN】</p> <ul style="list-style-type: none"> 店舗のある地域においての魅力発信に繋がる活動を行う。（清掃活動他）
	持続可能な調達	<p>全ての主要調達先がサステナビリティ調達ガイドラインを満たしている状況である。</p> <p>【SB,PS】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・21/2/24 サプライヤー に対する21年度マーケティング方針説明会の調達部門パート「サステナビリティ調達に向けて」で本内容を説明・要請。 ・CSR調達アンケート 6月出状、7月回収。 ー対象企業は SB送付 49 PS送付 56 ー主要調達先（上位100社）のうち、サステナビリティ調達ガイドラインを満たす企業の割合はアンケート回収結果からは100%となった。 ・サプライヤー満足度調査 9月実施 <p>【SB】 52社回収／56社出状（有効回答率95%）</p> <p>【PS】 69社回収／77社出状（有効回答率90%）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「グループ調達基本方針」及び「サステナビリティ調達」に関する理解と協力要請の実施。 ・サプライヤーに対し、サステナビリティ調達ガイドラインへの同意取付 ・サプライヤー様におけるサステナビリティ調達状況の確認実施（CSR調達アンケート実施） ・「公正・公平」な調達活動の検証 ・サプライヤー満足度調査の実施と抽出課題への取り組み。

約束	重点課題	2030年までの中長期目標	2021年までの進捗	2022年計画
環境保全	地球温暖化防止	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自社拠点でのCO₂排出量を2013年比で20%削減する。(2013年時事業会社) ・ 自社拠点以外のバリューチェーンにおけるCO₂排出量削減に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ CO2排出量は前年比で14%減。2013年比で23%減で目標達成。 ・ TCFDはビール原料農産物の収量に関するシナリオ別分析を実施。リスク・機会の特定とともに戦略と目標を策定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 省エネルギーの推進。CO2排出量前年比1.0%減。 ・ 国際基準に合致したGHG排出量算定方法の拡充と情報開示体制の強化。 ・ TCFDに基づく財務インパクトなどの情報開示拡充。
	3Rの推進	<p><水資源></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生産工場における水使用総量を2013年比で10%削減する。【SB,PS】 ・ グローバルでの水リスクへの対策を実施し、水資源保全に努める。 <p><容器包装></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 容器包装のリデュース（軽量化・簡素化）を維持・拡大する。 ・ 再生可能材料の利用を拡大し、容器包装材料の枯渇性資源依存を低減する。 ・ 社外との連携・協調を深め、持続可能な循環型社会の構築に貢献する。 	<p>水使用量は前年比で9%減。2013年比で14%減で目標達成。</p> <p>6か国28拠点の生産拠点と大麦・ホップのメインサプライヤー拠点について、WRIの「Aqueduct」により水リスクを調査。また、現地調査も補足的に実施。</p> <p>実施事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆プラスチック <ul style="list-style-type: none"> ・ サッポログループプラスチック方針を策定し、各社具体的取り組みを実施。 <ul style="list-style-type: none"> －再生PET：国内製造ワイン、清涼飲料での採用開始【SB、PS】 －プラスチックストローを紙へ変更【SLN】 －食品容器でのバイオマスプラスチック素材の使用拡大【PS】 ◆紙製資材 <ul style="list-style-type: none"> ・ ショートフラップ段ボールの展開を開始【SB】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水の効率的な使用。 <ul style="list-style-type: none"> －国内自社工場水使用量【SB】2013年比12.3%減 【PS】前年比原単位0.5%減 ・ 水リスク関連情報開示の拡充。 ・ 容器包装類におけるワンウェイプラスチックの使用削減、再生・バイオマスプラスチックの採用拡大。 <ul style="list-style-type: none"> －PETボトルの再生材使用拡大【SB、PS】 －焼酎用PETボトルの軽量ボトル採用【SB】 ・ 紙製包材の削減、FSC認証紙の採用拡大。 <ul style="list-style-type: none"> －ショートフラップ段ボールの本格使用【SB】 －紙製資材へのFSC認証紙導入拡大【SB】
	自然との共生	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気候変動に対応可能な特性を持つ大麦・ホップを開発する。【SB】 	<ul style="list-style-type: none"> ◆大麦 <ul style="list-style-type: none"> ・ 赤かび病抵抗性、穂発芽耐性、その他環境適応性の高い母本選抜等、進捗中。 ◆ホップ <ul style="list-style-type: none"> ・ 根系簡易評価法確立のための試験継続。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆大麦 <ul style="list-style-type: none"> ・ 赤かび病抵抗性母本を交配した集団を養成。 ・ 穂発芽耐性母本を交配した集団を養成。一部の材料について、現地での選抜を開始。 ・ 環境適応性の高いと考えられる母本を交配した集団を養成。一部の材料について、現地での選抜を開始。 ◆ホップ <ul style="list-style-type: none"> ・ 気候変動に強いホップ遺伝資源の選抜へ向けた根系評価を確立。 ・ 新規根系評価法による遺伝資源を評価開始。
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 恵比寿ガーデンプレイス、サッポロファクトリーを中心に、近隣生活者に自然と共生する暮らしを提供する。【SRE】 	<ul style="list-style-type: none"> ◆YGP <ul style="list-style-type: none"> ・ まちの基盤となる持続可能な環境を作るグリーンプロジェクトの検討進行。 ◆SF <ul style="list-style-type: none"> ・ マイリトルガーデン（SFでのガーデニング）を展開開始。 ・ 木育として、北海道庁と連携しアトリウムでのクリスマスツリーの木材を使ったオーナメントづくりのワークショップ等実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆YGP <ul style="list-style-type: none"> ・ まちの基盤となる持続可能な環境を作るグリーンプロジェクトの推進にて、自然が調和した持続可能で豊かな環境を育む。 ・ 都市農（YEBISU GARDEN FARM）を通じ、季節の野菜の栽培体験の提供、収穫した野菜を使った食イベント（食育）の実施。近隣生活者・来街者・オフィスワーカーの方々と共に、地域コミュニティを育む。 ◆SF <ul style="list-style-type: none"> ・ マイリトルガーデンによる地域を巻き込んだイベント開催。 ・ 創成イーストエリアの価値向上につながるコミュニティの形成と拡大につながるWS等の実施。
			<p>各カテゴリにおけるSKU削減および在庫圧縮のKPIを定めて廃棄ロスを削減した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外食店舗、食品流通における食品ロスの削減。【国内事業会社】
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 2024年までに食品廃棄物の再生利用等実施率50%を実現・継続する。【SLN】 	<p>2020年度（20.4～21.3）実績：41.4%。コロナ禍影響あり、前年比減。【SLN】</p>	<p>－</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 廃棄物再資源化率の向上に努め、主要工場（※）では100%を実現する。【※SB,PS】 	<p>主要13工場で廃棄物再資源化率100%を達成。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主要工場における廃棄物再資源化率100%実現。【SB,PS】

約束	重点課題	2030年までの中長期目標	2021年までの進捗	2022年計画
個性かがやく 人財の輩出	健康経営	<ul style="list-style-type: none"> ・従業員および家族に健康への意識向上・行動変容を促し、健康維持増進につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・喫煙対策：1月より社用車全面禁煙開始。健保オンライン禁煙、禁煙外来補助開始。喫煙率：24%（前年比2%減）【SH,SB,PS,SRE,SLN】。 ・40歳以上の生活習慣病健診受診率：84.7%（前年比約10%増）【SH,SB,PS,SRE,SLN】 ・生活習慣改善チャレンジCP：国内全グループ会社から約4000名参加。 ・健保ウォーキングCP：年2回のべ約1500名参加。 ・1日30分以上週2回以上運動習慣者の割合：33%（前年比2%増）【SH,SB,PS,SRE,SLN】 ・プレゼンティーズム：0.3%改善、ワークエンゲージメント：偏差値0.6向上。 ・高ストレス者割合：0.4%増（2020年9社、2021年10社データ） ・健康経営優良法人2021 各社で取得 ：大規模法人【SH/SB,PS】健康経営優良法人ホワイト500、【SLN】健康経営優良法人、中小規模法人【ヤスマ】健康経営優良法人プライト500 	<ul style="list-style-type: none"> 【SH,SB,PS,SRE,SLN】 ・喫煙率を12%に近づける ・生活習慣病健診受診率を100%に近づける ・運動習慣者割合を男性39%、女性35%に近づける ・各社の高ストレス者割合を前年より改善させる
	ダイバーシティ・人権	<ul style="list-style-type: none"> ・従業員一人ひとりがダイバーシティへの理解をより深め、誰もが生き生きと働ける環境を目指す。 ・女性管理職・女性役員比率を20%に向上させる。【SH、SB、PS、SRE、SLN】 	<ul style="list-style-type: none"> ・D&I意識調査のためのアンケート実施、結果公表 ・男性育休取得促進体験談発信、Co-ALIVE協働セミナー参画 ・人事担当役員D&I対談開催（第1弾、外国籍の従業員） ・啓発セミナー「対話のこぼれ」開催 ・女性活躍支援策（外部団体派遣）、女性管理職比率（5社）5.0%（前年4.2%） ・「Can Stars」に関し、社内会合6回、Can Starsカフェ3回開催、社外協働研修2回開催。両立支援ガイドブック改定に着手。社外協働で「生きている喜びを心から実感できるビール」の2022年夏発売に向けワークショップを3回開催。 がんアライアワード「ゴールド」4年連続受賞。 	<ul style="list-style-type: none"> 【SH,SB,PS,SLN,SRE】 ・ダイバーシティ&インクルージョン・チーム力のポイントを前年（3.0ポイント）より向上させる（ストレスチェック・従業員意識調査） ・女性管理職比率6.0%
	人財開発・育成	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分のキャリアは自分で切り拓く」従業員が活躍できる体制を整える。 ・がん治療中・介護中の社員が働き続けられる環境整備を行う。 ・障がい者雇用率3%を達成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1on1をより充実させるベースとなる「心理的安全性」について、全社の啓蒙と役職者がファンリテーターとなった研修を全部署で実施【SH,SB】 ・事業場での職域拡大を目指し、全社担当者会議を実施し外部講師による講習を実施。2021年末時点雇用率2.64%【SH,SB】 	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者雇用率 2.7%【SH,SB】 【SH,SB,PS,SLN,SRE】 ・高エンゲージメント者割合を前年（20%）より向上させる。（ストレスチェック・従業員意識調査）